

●大学の動向

大学における学生相談・支援の取り組み(2) 「国際基督教大学におけるトランスジェンダー 学生支援体制について」投稿に寄せて

近畿大学人権問題研究所准教授 熊 本 理 抄

「人権と社会」の講義を担当するなかで毎年、数人のトランスジェンダー学生から多様な相談を受けてきた。出席簿に記載された名前の確認時、「さん・くん」の呼称、「彼女・彼」の三人称、英語の授業の名前の呼ばれ方、学生証の名前記載、授業や試験時の名前記載など、名前や呼称をめぐる相談、学生証以外の書類の性別や名前の記載（通学証明書や定期券など）に関する相談、性別二元論を前提に組み立てられる授業内容・方法や、性別二元論が蔓延している大学のありように関する相談、教職員や学生の対応に関する相談、ゼミ合宿やサークル合宿などに関する相談、健康診断、トイレ、体育実技などに関する相談など、相談内容は多岐にわたる。一つひとつが学生にとっては日常の大学生活すべて、生きることに繋がっている事柄である。学生たちは、サバイバル手法を自ら必死に見つけながら臨機応変に対応しており、わたし自身が学生から学ぶことばかりであった。

各教職員が学生たちの声に耳を傾けることも重要であるが、組織として、学生たちの人格権や尊厳、教育を受ける権利を保障する責務が大学にはある。他大学のとりくみに学びたく、学生有志のサークル活動について調べたり、トランスジェンダーの友人たちに他大学の取り組みについて尋ねたりしていくなかで、国際基督教大学が発行している『LGBT 学生生活ガイド in ICU トランスジェンダー／GID 編』（2012年）に出会った。同大学では、性別に違和感を

もつ学生の学籍簿上の氏名・性別表記の変更を2003年から実施しているとあった。10年に及ぶ実践を学ばせていただこうと、すぐにガイドを発行している同大学ジェンダー研究センター（以下、CGS）に連絡をさせていただいたところ、すぐに快諾をいただき、訪問の運びとなった。訪問までのメールのやりとりからも、CGSの教職員がどのような理念や思いでセンターを運営しているのか、セクシュアルマイノリティの学生を支援しているのかが伝わってきた。

訪問日には、本紀要に投稿していただいた3名の方と、制度を利用している学生のお話を聞かせていただいた。原稿にあるように、声をあげた一人の学生に徹頭徹尾寄り添いながら大学を動かし、制度化を実現させた歴史から、現在の手続き上のことなどの詳細に至るまで、長時間にわたってお話を聞かせていただいた。

各関連部局が連携し、全学的に把握・共有するしくみづくりや制度化などの体制整備、セクシュアルマイノリティの学生が集まる居場所としても機能しているCGSの存在、マイノリティ学生・マジョリティ学生への情報発信、マジョリティ学生への「性の多様性」教育など、すべての大学ならびにすべての大学構成員が学びとりくむべき実践事例として紹介したいと思い、国際基督教大学におけるトランスジェンダー学生支援体制に関する投稿を依頼した。

本人のニーズ（「したいこと」「してほしいこと」と、大学ができること・できないことを照らし合わせながら、一つずつ積み重ねてきた経験がそこにある。最近、高校や大学からの問い合わせも増加しているという。とくに、小中高と困難や苦労を強いられてきた生徒たちが、自身でインターネットを活用し、LGBTフレンドリーであることを期待した問い合わせや入学希望が増えているとのことであった。

実際に、受験時ならびに合格後に大学に問い合わせた制度を利用した在学学生は、「高校までは、性に関することが生活するうえでの思考や感情の最大の部分を占めていたが、今は本当に好きなことややれることができるようになった

た。性別を意識することなく学生生活を送っている」と語った。

前述のガイドの前文には、次のように書かれている。

「LGBT 学生生活ガイド in ICU」は、ICU に在学する LGBT 学生が、よりよい学びの環境を得るためのサポートを目的として作られました。第一弾「トランスジェンダー／GID 編」は、これまでに ICU 内で実際に対応されてきた事例をもとに、制度面でのサポート情報を集約したものです。ここに掲載されている情報は現状の ICU で可能な対応であり、一人ひとりの希望に沿ったものでは必ずしもないかもしれません。CGS では学生の皆さんが過ごしやすい環境を作れるよう、働きかけを続けていき、ガイドの更新もおこなっていきます。また、今後もさまざまなジェンダー・セクシュアリティのニーズに応えたガイドを拡充していきます。

「正しい」対応やマニュアル対応はなく、一人ひとりのニーズを確認し話し合いをしながら、大学として何ができるのかを考えつづけていくことが重要である。トランスジェンダー学生も一人ひとり、思いも経験も、課題もニーズも、アイデンティティのもちようも、カミングアウトのありようも異なる。国際基督教大学のとりくみに学びながら、トランスジェンダー学生支援体制について、本学においても議論をはじめていきたい。